

アワーミュージアム

第 10 号 1999年6月30日発行



昔のこと今のこと

山蔭 涼

少年時代の一時期、特に夏になると、私は「狩猟採集民」だった。休みの日などほとんど一日中、近所の駄菓子屋だがしで買った十円の粗末な網そまつ あみを手に、日が暮れかかるまで、汗を髪の毛先から飛沫ひまつのように飛び散らせて、近所を駆け回っていたと思う。獲物を前に、捕獲する一瞬に向かって、集中が高まる研ぎ澄まされた緊張を、今も五感が鮮やかに記憶している。からからに渴いた喉のどを、頭を傾げて水道の蛇口から直に潤す時の、水のうまさじやくち うるおがよみがえる。



川筋を行きつ戻りつするオニヤンマを捕らえる事が、その頃の私の最大の関心事かんじんだった。必ず何度か同じ道筋を通るのだ。後ろから追っても無駄で、正面から瞬時に網を合わせる事が肝心かんじんなのだが、授業中のイメージトレーニングだけでは歯が立たず、何度か実地を繰り返してもなおなかなか捕らえることができなかった。幾日も作戦を練り直し、身をひそめ……、



初めて捕まえたとき、私は仲間からの賞賛や父からの誉め言葉ほをもらって誇らしかったものだ。

振り返ってみると、何がそれほど私を駆り立てたのだらうと、不思議な気がする。捕らえた獲物は近所のおじさんにこしらえてもらっ大きな虫かごに放り込んで、餌えさと思われる物を入れ、しばらく飽かず眺める。獲物は衰弱し、やがて死んでしまう。私の関心はうつろいやすく、翌日にはもう別の獲物を追っているのだ。

少年にもいくらかの感慨はあるが、捕らえる事の喜びと生き物の死に立ち会う事の感傷を交互に、無反省に繰り返し、繰り返し繰り返し……しかし私は今も、輝いていた夏の日々を、ちっとも反省などしていないのだ。その反対で、「狩猟採集民」であった私は犠牲ぎせいにした虫によって、生いとなとその営み、それから死を、知識としてでなく全身に感得し得たと思うのだ。当時の私は自然の中の、わかちがたい一部分だった。

年を経るにしたがって、垢あかや埃ほこりや知識を身に纏まとい、虫やそれを育はぐくんだ自然から、私は切り放されてしまった。今私が虫を語る時、私は虫と

同一平面にいないし、自然を語る時、あちら側の自然とこちら側の私がある。それで私は……自然を論理で語ろうとする人間になってしまった。

(やまかげ りょう：友の会会員)

四国遍路

滝 よし子

こうぼう たいし 弘法大師の遺跡, 四国88ヶ所の遍路の旅, それはどのようなものであったのでしょうか。

江戸時代は現代と違って, 思い立ったらすぐには旅に出られませんでした。旅に出るには, 「往来手形」というパスポートが必要でした。それは一種の身分証明書で, 住所, 名前, 旅の目的と「私の宗旨は 宗で, 御法度の切支丹ではございません。行き暮れ難儀した時は, 一夜の宿を借して下さい。もし途中で病死しても国元へは知らせなくて結構です。その土地の作法で埋めて下さい」といった内容が書いてあります。このような書式は, たいていきまり文句になっていたようです。中には病気になる, 国元から迎えに来た人もいましたが, 力尽き旅の途上で亡くなった人達のお墓が, 遍路道には沢山残されています。その情景は「道のべに阿波の遍路の墓あわれ」と虚子の句にもうたわれています。お遍路さんの白装束は, 死を意味するものもこのためだそうです。

現在は日本全国津々浦々, また外国からのお遍路さんもあり, 時折道を尋ねられることがあります。江戸時代はどこからどのような人々が四国遍路の旅に出たのでしょうか。それを探る資料が板野町に残っています。

図1は「入切手」といい, 阿波の国に入るため, 番所で発行してもらった入国許可証です。讃岐から阿波に入る時は,

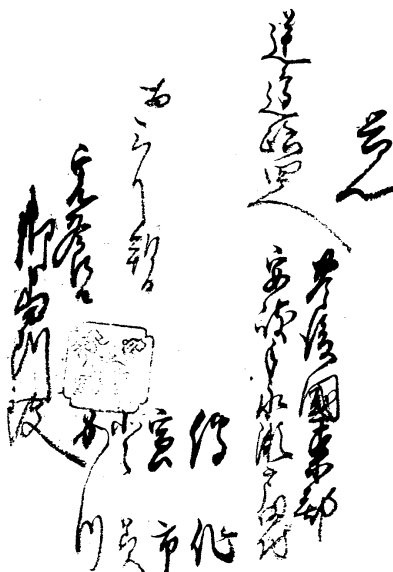


図1: 入切手

大坂口御番所 (または日開谷口, 暮浦口) で, 本人持参の往来手形を確認し, 何月何日改, 日数は15日切と定められました。そして阿波の札所を巡って土佐の国に行く場合は, 完喰口

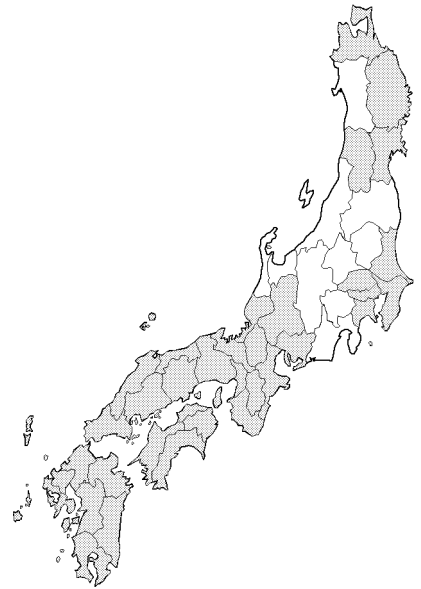


図2: 村瀬家資料に記録された阿波入国者の出身地

御番所 (現在の穴喰町) で, この切手を渡しました。反対に土佐から阿波に来るお遍路さんを「逆遍路」といい, 完喰口御番所で切手を発行してもらいました。一人旅, 夫婦連れ, 親子兄弟姉妹, 10~17人といった団体さんもありました。代々大坂口御番所役人の家柄だった村瀬家に残されている資料を見ると, 日本全国47都道府県のうち, 実に34都府県に及びます。図2は, それを地図で示したのですが, さまざまな地域からのお遍路さんがあったと想像されます。

お遍路さんの季節的巡拝習俗を調べてみると, 1月から4月, 特に2, 3月に集中しています。阿波藩では昔からお遍路さんには, 温かく接していました。村瀬家の資料にも「当山中二而辺路病氣二而……小屋懸引取介抱仕」といった古文書が残っています。藩からは遍路病気の節は, 養生させ看病人をつけなさいといったお触れが出されました。

行き暮れたお遍路さんには, 無料で宿泊を提供した善根宿や施行宿もあり「お接待」の風習は今もずっと続いています。板野町に「借る気にもなりてかしけり施行宿」の俳句が残っています。

(たき よしこ: 友の会会員)

博物館紹介 10

那賀川町科学センター

福島 浩三・由貴

今回紹介する那賀川町科学センターは、平成9年7月に体験館がオープンし、今年の2月には、公開天文台としては国内最大級の口径113cmの大型望遠鏡を備えた天文館が開館しました。

梅雨なかの中休みといった日曜日、小学4年生の娘と一緒に科学センターを訪ねてみました。入ってすぐのエントランスホールには、大気圧の実験装置が天井すれすれまで伸びています。ボタンを押すと、管の中の空気が抜け、大気圧で水が約10mの高さまでおしあげられ、驚かされます。

次の科学体験室には、大型てこ実験装置、ふりこの原理実験笠置（大型ブランコ）、パスカルの原理実験装置などの大型実験装置がたくさんあり、いろいろな原理を体を使って学ぶことができるようになっていました。娘のお気に入りには、ここのイライラ棒と電気自動車で、親子で夢中になって楽しむことができました。

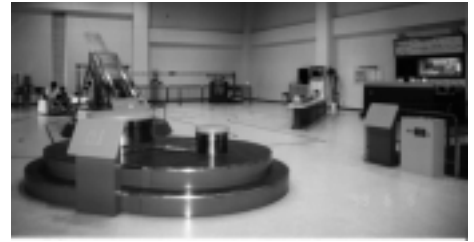
また、土曜・日曜日には「おもしろ科学実験コーナー」で、サイエンスショーがあります。この日は「回転のふしぎ」というテーマで、自作のこまなどを使った面白い実験があり、原理についてもわかりやすく解説してくれました。

一番の目玉は、2月にオープンしたばかりの天文館です。この日受付には、東明館長しのあきさんがいらっしゃって、気軽に声をかけていただきました。3階には天文館自慢の口径113



天文館外観

cmの大型望遠鏡があり、この望遠鏡では、理論上那賀川町から海を隔てた和歌山県に置いた500円玉を確認



展示室風景



国内有数の大型望遠鏡

することができるそうです。

あいにく薄曇りの天気でしたが、指導員の方に解説をしていただいて、金星やシリウスの観察ができました。空の明るい昼間に、星の観察ができることが驚きでした。

火・金・土の夜間には、観察会が開催されていますので、一度参加してみたいでしょうか（ただし、予約が必要です）。天文館1階の展示ルームでは、娘はパソコンを使って、クイズやアニメで科学や天文に関することを勉強していました。

徳島市からおおよそ40分（55号バイパス経由）のところであり、近くには出島恐竜公園や野鳥園でじまもあります。休日の日、ご家族で少し足を伸ばしてはいかがでしょうか。自然や宇宙を感じて、少し賢くなって（？）、科学センターを後にしました。

（ふくしま こうぞう・ゆき：友の会会員）

那賀川町科学センター

〒779-1243 徳島県那賀郡那賀川町大字上福井
字南川淵8-1(TEL 0884-42-1600)

休館日：毎週月曜日、第3日曜日、祝日（ただし、5月3～5日・7月20日・11月3日は除き、翌日休館）、年末年始（12月28日～1月4日）

開館時間：午前9時30分～午後4時（天文館は夜間も開館しています）

観覧料など詳しくは、すてきなホームページ
<http://nakasci.town.nakagawa.tokushima.jp/> を
ご覧ください。

スタッフ紹介

天羽利夫（あもう としお）

県立博物館長

はじめまして。

亀井節夫ただお館長の後を受けて、4月から館長をしています。よろしく申し上げます。私がこの紙上に登場するのは初めてですが、眉山びざんロープウェイ駅のところにありました旧博物館へ1968年に学芸員として就職して以来、30年あまり博物館で仕事をしています。84年から4年間は文化の森をつくる準備のために、そして97年から2年間は県教育委員会文化財課へと一時博物館を離れましたが、私にとって博物館は切っても切れない存在です。



私の博物館運営のモットーは「地域に根ざした、開かれた博物館」です。今まで以上に県民に親しまれ、気軽に利用していただける博物館にしたいと思っています。精一杯がんばりますので会員の皆さんよろしく申し上げます。

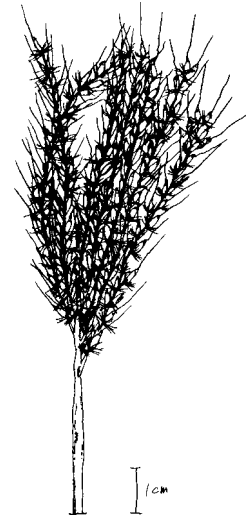
私の専門は考古学です。考古学に関することでお手伝いできることがありましたら遠慮なく、いつでもおっしゃってください。今年度の私の楽しみは、今年の10月24日から11月21日まで当館で開催される「発掘された日本列島'99」です。この展示会は、文化庁が昨年全国で発掘された遺跡の中からとくに重要なものを選んで全国を巡回するものです。この展示会に合わせて、徳島県内から発掘された貴重な品々も別の会場で同時に展示することになっていますので、考古ファンは絶対見逃すことができないと思います。今から皆さんも楽しみに待っていてください。

茨木 靖（いばらぎ やすし）

学芸員（植物担当）

私は横浜に生まれ、子供の時は住宅地の間に残った田畑で虫かえるや蛙やらを捕って遊んでいました。

そんな訳か生き物は皆好きでしたが、とりわけ魚が好きでした。そこで大学入試の時、魚の勉強ができる学部を尋ねますと、先生は「農学部だね。」と教えてくれました。

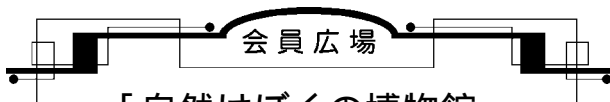


大学に入るとすぐに「僕は魚をやりたいんです。」と教授に言いました。すると「うちではやってないねえ」ときっぱり言われました。

途方に暮れていた頃、講義を受けた植物学の先生が親切そうだったので、以後この先生につくことにしました。これが植物あわと私との出会いです。この先生がイネ科（稲、粟、ススキの仲間）の先生だったので、自然と私もイネ科を中心に研究することになりました。

最近はススキの仲間の分類学的研究をしています。個人的には「僕がススキの研究を進めなきゃ」という使命感に燃えています。人に言うと決まって「お月見のことも調べてるの?」と言われる。こんな私ですがよろしく申し上げます。





「自然はぼくの博物館」

福井中学校1年 新居 実千春

自然の営みには、いろいろ不思議に思うことがある。例えば、化石や土のようなこと。もっと知りたいと思って、本を読んだり先生に聞いたりしていた。そして、小学3年生のころ夏休みの自由研究で砂や石のことについて調べて発表して賞をもらった。そこで、もっと石などの事を知りたいと思って、母と文化の森の博物館や勝浦の立川へ化石を見つけに行った。谷あいには恐竜の足あとらしきものを見つけた。うれしかった。

そして、ぼくの周りにも自然の博物館がある。山や川や海がある。しかし、わからないときは、本や博物館に行って調べたいと思う。ぼくの頭の中には不思議なことや楽しいことがいっぱいある。それを見つけたらまた調べたいと思う。将来ぼくはこんな石や砂のことにしたい仕事が見たい。それにはもっともっと自然を知りたいと思う。

(にい みちはる：友の会会員)

今回、紹介する新居君は中学生としては唯一^{ゆいいつ}の個人会員です。先の文章にあるように、小学校低学年の時から自然に興味をもちはじめたそうです。もう少しお話をうかがってみましょう。

- 化石などに興味を持ったきっかけはありますか？

新居君：小学校3年生のころから母といっしょに化石などをさがしにいった、好きになりました。立川谷^{たつかわ}では恐竜の足跡のような石(40~50cm)も見つけましたが、1年後に行ったときにはなくなっていました。小学校3年生の時「石ころは地層からのたより」という自由研究もやりました。それと^{ししくい}穴喰^{れんこん}の漣痕も見に行きました。

- 採集した化石はおいてありますか？

新居君：はい、10点ほどあります。

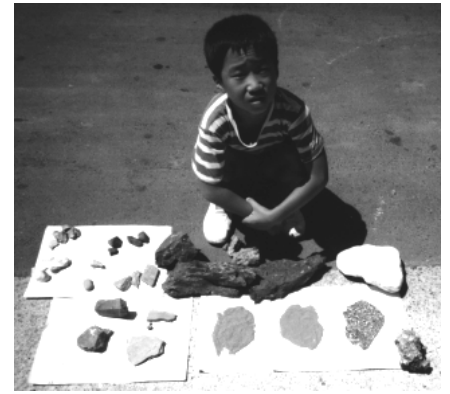
- どんな化石ですか？

新居君：クサリサンゴのなかま、二枚貝のなかま(ハヤミナ・ナウマニイ、バケベリア・シノハライ)、アンモナイトなどです。化石をさがしに行ったとき、偶然であった先生が教えてくれました。

- 現在中学1年生ですが、中学生になっても調査に行ったり、勉強したりしていますか？

新居君：調査には行きたいのですが、最近は時間がとれなくて行く機会がありません。学校では月に2回ですが、理科科学クラブで活動しています。

- 最後に、将来の夢があれば聞かせてください。
新居君：化石を調べる仕事とか、考古学の仕事がしたいです。



小3の時の新居君とコレクション

新居君は歴史についても興味があることなどをひかえめながら、ていねいに答えてくれました。これからも夢を大切に頑張ってください。同じ年ごろの友の会会員のみなさんも新居君のように自分の好きなものや興味のある分野でいろいろ活動している人がいれば、ぜひ知らせてください。

学芸員からのコメント

恐竜の足跡のような石をみつけたのに、なくなってしまうととても残念ですね。せっかくの発見も、それを実証していかないと、無駄になってしまいます。博物館はその手助けになると思いますので、どんどん活用してください。(中尾)

友の会の行事の記録

子どもの日フェスティバル

場 所：徳島県立博物館 2 階常設展示室

日 時：5月5日（水）9:30～15:00



子どもの日フェスティバルの様子

子どもの日に「子どもの日フェスティバル」を開催いたしました。子どもたちが博物館に親しみを持ち、あわせて博物館活性の担い手としてすくすく育って行かれることを願って本年も実施しました。小学生以下の子どもたちには記念品として、8種類の昆虫下敷きと紙ふうせんを進呈しました。またクイズは、4種類のカラー問題用紙を用意しました。約1400名あった入館者のうち、500名がクイズにチャレンジしてくれましたが、生き生きとした子どもたちの目が特に印象的でした。友の会活動の紹介、入会の勧誘など終日ボランティアとして活動をして下さった会員の方々に深く感謝申し上げます。

初夏の研修会

場 所： 兵庫県立人と自然の博物館

（兵庫県三田市弥生が丘6丁目）

野島断層保存館

（兵庫県津名郡北淡町小倉177番地）

日 時：6月13日（日）9:00～18:00

参加者：46名

友の会行事の中で、バスによる研修会は年間2回です。その内の1回目にあたるのが今回実施された初夏の研修会です。当日は、梅雨入りとはいえ雨のない絶好の研修日和と申しましょうか、本当にラッキーな一日でした。まず神戸の北の三田市の人と自然の博物館では、参加者全員の記念写真を撮り、自由に館内を見学いたし

ました。そして、ミュージアムメイトさんに展示解説もしていただきました。次に淡路島の北淡町にある野島断層保存館を訪ねました。自然の驚異に驚かされたと共に、観光バスの多さにも違った意味で驚かされました。行き帰りのバスの中では、寺戸会長のわかりやすい解説とバスガイドさんの慣れた説明で、長時間の行程も短く感じました。本当にお世話になりました。

「初夏の研修会」参加者のご意見

・人と自然の博物館は、ゆったりとした空間で、盛りだくさんの展示、映像を使った説明など興味深く見学することができました。全部を見学するには時間が不足でしたが、ミュージアムメイトさんに説明していただいたイワナの食性や企画展「住む」は特におもしろかったと思います。一番印象に残ったのは、クリーニングのハンガーを使ったハシブトガラスの巣で、おかしいのを通りこして悲しいような気持ちになりました。野島断層については、道々バスの中からも説明していただいて、何気なく見ていた風景も違って見えました。寺戸会長さんありがとうございました。

・人と自然の博物館では、内容が多すぎて短時間での見学は困難と思われました。あれだけの規模があれば一日でも不足するでしょう。別のときにまたゆっくりと見学したいと思っています。一方、野島断層保存館では、人の多さに驚かされてしまいました。2年前の研修会の折の逃げ出すように立ち去ったことと比べると隔世の感がありました。展示内容も多く観光客が訪れるのに適しているように思われました。メモリアルハウスも地震の恐ろしさを多くの人に知ってもらうためには効果的と思われました。子供にも一度見せておきたいと考えています。・震災直後にボランティアでこの地へ来ました。野島断層もその折に見に来ましたが、新たにこの地に立って自然の恐ろしさを思い知りました。・人と自然の博物館の中では、問題を解きながらスタンプラリーをして勉強になりました。自

信はなかったけど全部できました。楽しかったです。
・野島断層を見ることができ自然科学を理解することができると共に興味を覚えました。立派な博物館を作り整備しているが見学者が少ないように思います。子供等に親しませる方法は？会長さんの懇切丁寧な説明ありがとうございました。博物館の方々の親切な説明お世話ありがとうございました。



春の研修会（人と自然の博物館）

平成 11 年度友の会総会の報告

平成 11 年度の友の会総会は、5 月 9 日（日）午前 10 時から博物館 3 階講座室で開催されました。

今年は 16 名の参加がありました。席上、10 年度の事業および決算報告・監査報告、11 年度の事業および予算案についての審議が行われ、承認されました。また、11 年度役員を選出が行われ、幹事を 1 名増員して、15 名の役員が選出されました。

平成 11 年度友の会事業計画

- (1) 役員会、総会の開催
- (2) 友の会行事の実施
- (3) 会報「アワーミュージアム」の発行
：年 3 回発行し、会員に送付します。
- (4) 博物館発行の展示解説・企画展図録の増刷、販売
- (5) 博物館催し物等の案内：博物館ニュースのほか、毎月の催し物案内、企画展チラシ等を送付します。
- (6) その他：会員の博物館利用の促進をはかる



友の会総会の様子

ため、会員の常設展無料観覧、ミュージアムショップでの利用割引等を行います。

平成 11 年度友の会の行事（予定）

- ・子どもの日フェスティバル 5 月 5 日（火）
 - ・初夏の研修会（兵庫県三田市・北淡町）
6 月 13 日（日）
 - ・地引き網（阿南市中林） 7 月 18 日（日）
 - ・夜の昆虫採集（名東郡佐那河内村）
7 月 31 日（土）
 - ・魚釣り大会（園瀬川河口） 9 月 26 日（日）
 - ・秋の研修会（香川県立歴史博物館ほかを予定）
11 月 28 日（日）
 - ・徳島県立博物館友の会バザー & 竹でっぽうづくり（博物館実習室）
12 月 19 日（日）
 - ・草だんごづくり & 七草がゆ（博物館実習室）
1 月 30 日（日）か 2 月 6 日（日）
 - ・企画展説明会
「よみがえる江戸時代絵巻 - 大名行列 - 」
説明会 5 月 2 日（日）
「伊能忠敬が描いた 日本」説明会
10 月 3 日（日）
「発掘された日本列島 '99 新発見考古速報展」
説明会 11 月 3 日（水）
- * 行事についての詳しい案内は後日別便にてお送りします。ふるってご参加ください。

平成 11 年度友の会役員

（* 新役員、他は留任）

会長：寺戸恒夫

副会長：天羽利夫*（博物館長）・森本康滋・

真貝宣光

平成10年度会計決算及び11年度予算

幹事：和田賢次・石原 侑・徳山 豊・
 多田精介・本田 昇・森本嘉訓・
 鎌田幸子*・関真由子*・南部
 洋子*
かしわの
 監査：柏野寿一・川下浩子

平成10年度決算および11年度予算
 右の表をご覧ください。

【事務局から】

11年度友の会会員

6月10日現在,会員数は個人会員87名,家族会員103組です.活動をさらに充実させていくためにも,さらに会員の輪を広げていきましょう.身近に博物館について興味・関心のある方がいらっしゃれば,ぜひ入会をお勧め下さい.また,会員の和も深めていきましょう.積極的に友の会活動に参加いただくとともに,いろいろな機会に友の会の活動,行事の内容などについて提言いただけたいと思います.

夏休み中の友の会行事について

・夜の昆虫採集(名東郡さなごうち佐那河内村)

7月31日(土)19:00~21:00

会報「アワーミュージアム」の原稿募集について

すでに通信でお知らせしていますが,会員の皆さんの原稿を募集しています.それぞれの専門分野での研究成果の発表はもとより,身の回りのできごとで博物館に関係あること等どんどんお寄せいただけたらと思います.皆さんの原稿をお待ちしています.

「アワーミュージアム」のタイトルデザインが変わりました
 みなさん,今号の「アワーミュージアム」を見て

<収入>

項目	10年度予算	10年度決算	11年度予算
前年度繰越金	142,216	142,216	43,052
会費	510,000	508,500	510,000
図録売上	906,000	853,410	868,500
行事参加負担金			225,000
雑収入	50,000	272,988	50,000
合計	1,608,216	1,777,114	1,696,552

<支出>

項目	10年度予算	10年度決算	11年度予算
図録印刷費等	600,000	627,775	480,000
館利用促進費	60,000	37,468	60,000
行事費	350,000	576,239	575,000
通信費	300,000	258,820	300,000
事務局費	114,216	75,360	87,552
報償費	28,000	32,800	48,000
事務局整備基金積立	60,000	0	50,000
総合案内積立基金	96,000	125,600	96,000
次年度繰越金		43,052	
合計	1,608,216	1,777,114	1,696,552

すぐお気づきになりましたか?そうです,タイトルのロゴデザインが変わったのです.デザインして下さったのは,徳島市北矢三町に事務所を構える柏木やそ団さんです.柏木さんには第9号までのタイトルロゴもお世話になっていましたが,新しくシンボルマークを組み込んだデザインを作っていただきました.お忙しい中,全くのボランティアで我々のために時間をさいてくださった柏木さんにこの場をかりてあらためてお礼を申し上げたいと思います.

友の会事務局が一部変わりました

今年度は,日下武久(事務局長),米益麻夫,山口英二,結城孝典,小川誠,庄武憲子となります.新たなデザインを取り入れ,これからも楽しく読みやすい「アワーミュージアム」にしていきたいと思しますので,みなさんのご協力をよろしくお願いいたします.

第10号

10
 June 1999...
 Tokushima
 Prefectural
 Museum

徳島県立博物館友の会会報
アワーミュージアム



1999年6月号 発行 徳島県立博物館友の会
 〒770-8070 徳島市八万町向守町 徳島県立博物館内
 TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197